

中北条集落「集落営農ビジョン」

作成日：平成27年 7月 6日

修正日：平成 年 月 日

市町村名	北栄町	組織名	中北条水田生産組合
------	-----	-----	-----------

1 地区の範囲  
東伯郡北栄町中北条地区

2 地区の概要

水田面積 91.0ha	主な水田栽培作目 水稻・大豆・麦	農家数 258戸
認定農業者数 3経営体	人・農地プランの中心となる経営体数	4経営体

3 組織化及び集積率（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標

【項目】		【現状】	【目標】 28年度
組織の概要	設立時期 (規約等の制定日)	平成10年4月7日 (平成10年4月7日)	達成
	組織形態 (該当形態に○を記入)	・未組織 ・共同利用型 ・作業受託型 <u>・協業経営型</u>	・共同利用型・作業受託型 <u>・協業経営型</u>
	構成農家数	231戸	234戸
農地の集積	集積面積 A	73.7ha	75.0ha
	対象水田面積 B	77.4ha	77.4ha
	集積率 A/B	95.2%	96.8%
世代交代への取組		オペレーター 50歳代5人	オペレーター 30歳代3人 40歳代3人を育成予定
新規就農者の活動参画		*****	*****

注1) 目標は、事業実施最終年度とする。

2) 設立時期の目標欄は、ビジョン作成時に組織が設立されていないときのみ記載すること。

3) 集積面積の詳細は、別表「集積目標（実績）一覧」により作成。

4) 集積率の目標は、50%超が採択要件。

5) 集積率の目標は、原則として現状よりも高い数値を設定すること。

6) 集積率の目標値を現状より高い数値に設定することが困難な場合、構成農家数の増、世代交代への取組、新規就農者の活動参画のいずれかでも可。ただし、世代交代への取組又は新規就農者の活動参画の欄に現状及び目標を記載すること。

# I 集落営農に対する基本方針

## 【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

### 1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

※考え方（担い手をどう育成し確保していくか。農地賃借、機械の共同利用、作業受委託、生産の組織化などについて。）

中北条水田生産組合は北栄町中北条地区6集落にまたがる県営担い手基盤整備事業にともない圃場の大区画化・用水のパイプライン化・農道の整備等を行う中で平成10年4月に集落の枠を越えた営農組合として設立し、平成27年現在受益者231名、受益面積73.7haで運営している。この地域の担い手は、本組合のほか、3認定農業者が中心となっているが、個人有の水田も多数存在しており、周辺農家の高齢化・後継者不足により生産組合への耕作依頼が増加することが見込まれる。

上記事業により大区画化が図られているため、集積は1ha単位で行われることが多く、個人で集積することが困難であることから、本組合が中心となり、集積を行っていく。

### 2 水田作付計画、生産調整の方針・具体策

※考え方（今後伸ばしていく作物は何か。団地化・ブロックローテーション。作物の品質向上。）

作付け計画については水稻を中心に転作品目として麦・大豆・飼料米の作付けを行っている。水稻については普及所等関係機関の指導を受けながら機械の効率的利用と作付け・収穫作業が適期に行えるよう早生品種「ひとめぼれ」「こしひかり」中生品種「きぬむすめ」の3品種を調整しながら作付けしている。近年夏季天候の不安定により早生品種品質低下が見られる中で「きぬむすめ」作付けを進めていく方向であるが、年により作柄が安定していないため、今後品質・収量を安定的に確保するために関係機関の指導を受けながら栽培技術の検討を行っていく。

主食用米価格の低迷が常態化すると見られており省力化による一層の低コストを可能とする栽培技術として鉄コーティングによる湛水直播技術の試験栽培を行っているが、導入に当たっては新たに播種機械・水田レベルを確保し初期発芽のための水管理精度を向上させる必要があるなど大区画水田での導入には課題が多いと考えられる。乾田直播技術を含め試験栽培に取り組んで行く。

転作品目については大豆・麦を中心に水田の高度利用を図るため麦+大豆体系の作付けを進めていく。両品目ともアップカットロータリーの導入による「耕転同時畝立て播種栽培」に取り組み作業性の向上・排水性の向上による作柄安定・収量増が図られてきたがより省力化が可能となる大豆密植栽培（中耕無し）作業体系を検討していく。

### 3 農業用機械施設の効率利用

※考え方（省力・低コスト化に向け、機械・施設をどのように有効利用していくか。今後整備が必要なもの、JAが整備している施設をどのようにするか。）

圃場区画が大規模であること組合員の高齢化が進む中一層の作業の効率化・省力化を進めていきたいと考えている。

このような状況の中、平成23年度～24年度に「次世代につなぐ地域農業バックアップ事業」を活用し高性能田植機（10条）、大豆コンバイン、ツインモアを整備した。高性能10条田植機を導入した事により田植作業の効率が向上し、代かき作業の効率アップが求められたため、平成25年度にはクローラータイプの大型トラクターの導入にあわせ広幅ハローを導入したことにより田植え作業が格段に向上した。

また、プラウ（スタブルカルチ）の活用による耕盤破碎により排水改善・作土層確保・稲株の腐熟促進を図ることにより作柄の安定が図られている。

このように効率化・省力化を進めていく中で、水稻・大豆・麦の防除作業については、現在2台の水田用乗用管理機（ビートル）で行っているが、農地集積の進行、近年の病害虫発生の増加傾向等から、作業適期が短い防除作業について既存機械の能力上支障を来している。

水田利用の主体となる水稻栽培は、他作業の時期分散の関係もあり早晩性品種を組み合わせているが、それでも7月下旬の水稲防除（早生品種穂ばらみ期）の作業は機械能力が不足している。この防除作業は米の収量及び品質の良否に影響してくることから、当該期間の適期防除は農業経営上で重要な作業である。

また、その他期間、特に夏期の水稲防除と大豆防除の期間が重なっていることから、天候の影響から適期防除が困難な年もある。

このような状況下、能力の低いビートル1台を廃棄し、防除作業幅・薬液タンクが大型となるビートルの導入することで作業効率の向上を目指す計画である。

### 4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

※考え方（世代交代に備え、組織運営の後継者をどのような方法で育成していくか。新規就農者の活動参画。具体的な取組みの内容について。）

機械部を中心にオペレーター作業の調整を行っている。設立当初のオペレーターは高齢化が進んでいるが新規就農者を含め随時若いオペレーターの加入も進めている。

今後とも地域の情報を収集しながら若い生産者の組合への参加を促していくとともに、新規オペレーターの資格取得を進め作業が安全に遂行できるよう努めていく。

5 経営多角化の方針・具体策【経営多角化支援メニューを実施する組織においては必ず記入】

※考え方（どのような手法で多角化を図るか。新規作物の導入、販路拡大に向けた自主的な取組みなどについて。）  
営農計画については今後とも水稻+麦・大豆を中心に作付けを行っていくが、飼料用米の作付け  
・耕畜連携を模索しながら収益の確保を図っていく。  
平成28年までには法人化に向けて取り組んでいく。

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額（円）	導入予定年月	本事業による 導入機械に○
乗用管理機	15.9m	1	5,830,000	平成27年7月	○